



第303回生存圏シンポジウム 木の文化と科学XV



木の文化を遺す ―オモテの話、ウラの話―

日時：2016年1月21日（木）

場所：京都大学生存圏研究所 木質ホール

木質文化財の保存、いわば木の文化を守り伝えていくためには、様々な取り組みが必要です。建造物、仏像、出土木製遺物など、文化財の種類によってもその保存のコンセプトは異なります。私たちの目の前にある木質文化財は、ただ単にそこに建っている、あるいは置かれているのではなく、その状態にするまでにあるいはその状態を保てるように、多くの陰ながらの努力がなされています。そんなオモテとウラ話を伺います。

13:30 開会

ごあいさつ

京都大学 生存圏研究所 杉山 淳司

13:40～14:20

『木質文化財の保存と活用 ―多様性の認識と展開―』

文化庁 美術学芸課 建石 徹

14:20～15:00

『文化財建造物を支える職人の知恵と技 ―解体修理でわかる伝統技術―』

京都府教育庁 文化財保護課 鶴岡 典慶

15:20～16:00

『木彫仏、常識のウソ・ホント』

東京芸術大学 古美術研究施設 矢野 健一郎

16:00～16:40

『発掘された考古木製遺物を保存する』

奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 高妻 洋成

聴講無料

問合せ先：京都大学 生存圏研究所 バイオマス形態情報分野
0774-38-3634

lbmi-sympo@rish.kyoto-u.ac.jp

共催：奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室

